

「うぐい突き」漁法が国立歴史民俗博物館で常設展示

国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)の開館30周年記念として、総合展示第4展示室「民俗」が3月19日からリニューアルオープンされます。

展示リニューアルにより、気高町睦逢で営まれる「うぐい突き」が展示紹介されます。

○気高町睦逢の大堤池とうぐい突き

内 容：別紙のとおり

○保存団体：大堤うぐい突き保存会（平成6年結成）

「うぐい突き」漁法が国立歴史民俗博物館で常設展示

●気高町睦逢の大堤池と「うぐい突き」漁法について

気高町睦逢の大堤池は昔から農業用水として利用するほか、春には鯉やフナを放流しています。秋には、池の底にたまった泥やゴミを取り除くとともに、水抜き後に放流した魚を捕獲するための漁法「うぐい突き」を行っています。

この「うぐい突き」は水を抜いた大堤に入って「うぐい」という竹で編んだかごを泥の中に突きたて、中に入った魚を取る漁法で、この地域に昔から伝わる伝統漁法です。（詳細は別紙）

例年10月初旬にはこの漁法を体験できるほか、魚釣り、魚のつかみ取り、池で取れた鯉と地元産の食材を使った鯉こくを用意するイベントを実施しています。

● 国立歴史民俗博物館での常設展示

国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)の開館30周年記念として、「民俗」部門が3月19日からリニューアルオープンし、「うぐい突き」が常設展示として紹介されています。

●保存団体：大堤うぐい突き保存会（平成6年結成）